

令和5年8月22日

第73次 印旛地区教育研究集会

進路指導部会 提案資料

研究主題

自己理解を深め、夢や希望をもって将来の生き方を考えようとする生徒の育成



キャリア教育講演会

(マッスルスーツ®開発者 小林宏教授を迎えて)

第二部会 成田市立中台中学校
教諭 松澤 吉晃

1. 研究主題

自己理解を深め、夢や希望をもって将来の生き方を考えようとする生徒の育成

2. 主題設定の理由

学習指導要領においてキャリア教育は、特別活動のカテゴリーに示されているだけでなく、第1章総則の第4.生徒の発達の支援(3)において、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ることとある。あえて総則に明示されている意味を全教員が理解し、学校教育全体でその充実を図ることが求められている。しかし、現在の子どもたちを取り巻く環境は、望ましいキャリア発達を促すうえで極めて難しい状況を抱えている。世界規模の情報技術革新と、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等は、子どもたちが描く自らの将来の捉え方にも変化をもたらしている。子どもたちは、自分の将来の姿を重ね合わせられる理想的な社会人のモデルを見つけにくく、将来に向けて希望あふれる夢を描くことも容易ではなくなっている。さらにAIによる職業・雇用の形態が激変するであろうと予想されている今、子どもたちが将来に抱くイメージはあまりにも不透明である。そんな子どもたちが社会的・職業的自立に向けて必要な基礎的・汎用的能力を身につけるためには、自己理解と自己肯定感向上のうえに、自らの未来は可能性に満ちているという意識を根底にもつことで、主体的に学習を積み重ねていけるのではないかと考え、この主題を設定した。

3. 生徒の実態

<生徒アンケート結果>

【全国学力学習状況調査(3学年:生徒質問紙)より】

		将来の夢や目標を持っていますか				自分には、よいところがあると思いますか			
		当てはまる	やや当てはまる	やや当てはまらない	当てはまらない	当てはまる	やや当てはまる	やや当てはまらない	当てはまらない
令和2年度	中台中	67.8		32.2		65.5		34.5	
	県	47.6	20.2	17.9	14.3	23.8	41.7	20.2	14.3
	国	43.8	26.4	18.0	11.6	27.4	44.6	20.1	7.8
	国	44.9	25.6	17.9	11.5	29.0	45.1	18.6	7.3
令和3年度	中台中	72.0		28.0		74.0		26.0	
	県	39.0	33.0	17.0	11.0	29.0	45.0	17.0	9.0
	国	39.2	28.6	20.0	12.0	31.9	41.8	18.0	8.2
	国	40.5	28.1	19.5	11.8	34.5	41.7	16.6	7.1

令和4年度

中台中	60.8		39.2		77.0		23.0	
	44.6	16.2	25.7	13.5	32.4	44.6	12.2	10.8
県	38.3	27.9	19.9	13.8	33.7	42.7	16.2	7.3
国	39.8	27.5	19.1	13.4	36.0	42.5	14.9	6.6

【令和5年度 校内アンケート結果（全校生徒）より】

将来の夢や目標を持っていますか				自分には、よいところがあると思いますか			
当てはまる	やや当てはまる	やや当てはまらない	当てはまらない	当てはまる	やや当てはまる	やや当てはまらない	当てはまらない
68.6		31.4		80.1		19.8	
40.1	28.5	23.2	8.2	41.5	38.6	14.0	5.8

アンケートの結果から、全体的には肯定的な回答が多いが、全国や県と比較すると若干肯定的ではない回答が上回っている。設問「将来の夢や目標を持っていますか」は、主に職業観や勤労観について、また、「自分には、よいところがあると思いますか」は、自己理解・自己肯定感についての意識と捉えると、特に自己理解・自己肯定感を抱けていない生徒が少ないながらも存在することが課題と言える。しかし、年を追うごとに改善の様子が見られ、教育活動の効果が表れはじめているとも捉えられる。今後も「当てはまらない」と回答する生徒が0%になることを理想として研究と実践を重ねたい。

4. 研究仮説

<研究仮説1>

キャリア教育において、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うことで、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるようになるであろう。

<研究仮説2>

キャリア教育において、職場体験学習や社会人講話の機会を持つことで、生徒が自分らしい生き方を実現しようとする態度が身につくであろう。

5. キャリア教育全体計画

<p>保護者・地域の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動に対して関心が高い。 ・ニュータウンの中にあり、生活層の格差が小さい。 ・保護者の期待は進学支援に限定されてはならず、生徒の社会的・職業的自立を目指した多様なキャリア教育を望んでいる。 ・保護者の幅広い期待に応える実践の充実が求められる。 	<p>学校教育目標</p> <p>自ら学び、豊かな心をもち、たくましく生きる生徒の育成</p>	<p>生徒の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく、素直な子が多い。 ・自主的に考えて行動しようとする意欲にやや欠ける。 ・できるだけ他の人と同じにいるほうが安心する。 	
<p>地域との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を積極的に活用し、社会人講話を実施する。 ・職場体験学習において地域の事業所・施設に協力を依頼する。 	<p>めざす生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく学び、よく働き、よくあひさつする生徒 ・互いを理解し、自分も仲間も大切にす生徒 ・豊かな感性としなやかな心を持つ生徒 	<p>キャリア教育における生徒の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導や特別活動などを合わせた様々な教育活動を、「将来の生き方や進路を考える上で役立っている」という生徒が多い。 ・人の役に立つ人間になりたいと感じたか、そのための努力ができる人間になりたいと考えている生徒が多い。 ・人と協力して行動することができる生徒が多い。 	
<p>めざす学校像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力を大切にす学校 ・歌声と笑顔の溢れる学校 ・地域に開かれた学校 	<p>キャリア教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員自身がキャリア教育への理解を深め、本校の教育にキャリア教育を根付かせていく。 ・「基礎的・汎用的能力」：キャリア教育で育成すべき能力等を意識した実践を学校の教育活動全体を通して推進していく。 ・キャリア教育の教育課程への位置付けとキャリア教育年間計画を作成する。 ・キャリアパスポートを基に各学年でキャリア教育を意識した実践を推進する。 	<p>目指す教師像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に温かくも厳しい教師 ・強い使命感と高い倫理観を持つ教師 	
<p>育成すべき能力や態度(基礎的・汎用的能力)</p>			
<p>人間関係・社会形成能力</p> <p>「周りの人たちに声かけや働きかけを行ったり、リーダーシップをとれる」などリーダーシップの面を強化する必要がある。そのため、リーダー指導や、すべての生徒にもリーダー体験をさせていく。</p>	<p>自己理解・自己管理能力</p> <p>「自分の良さ(長所)や優れている面を述べるができる」など自己の役割の理解を強化する必要がある。そのため、自己理解の学習を進めていく。</p>	<p>課題対応能力</p> <p>「調べた進路情報をまとめ、工夫して発表したことがある」など情報の理解・選択・処理等を強化する必要がある。そのため、進路情報を調べ、まとめて、発表する活動を行っていく。</p>	<p>キャリアプランニング能力</p> <p>「自分は将来何のために働くか、説明できる」など学ぶこと・働くことの意義や役割の理解の面を強化する必要がある。そのため、キャリアパスポートを基に勤務観・職業観・進路計画の授業を行っていく。</p>
<p>各教科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標や内容等の中に「基礎的・汎用的能力」を見いだして、その能力・態度の向上に努める。 ・教科の学習を通して、自分の興味・関心、進むべき方向や生き方について考える契機とする。 ・教科の学習を通して、将来の生活や職業に必要な知識や技能を習得させる。また、教科の内容に関連する職業を意識した実践を行う。 	<p>各学年の重点目標(学年間の連携) キャリアパスポートの系統的活用</p> <p>1年</p> <p>【重点目標】 「情報の理解・選択・処理等」など課題対応能力や「学ぶこと・働くこと」の意義や役割の理解などキャリアプランニング能力を高めていく。 【職業人に関する指導内容】 ・職業人に関する会、指導内容 ・職業や働くことについて調べる。知る。職業調べ・職業インタビューとその発表会、職業講話など・自己表現やストレスへの対処法の指導 【学級活動での指導内容】 ・なぜ、私たちは学ぶのだろう・「なぜ、私たちは働くのだろう」 ・職業について調べる・「10年後の自分を考えよう」・自分を知る、友だちを知る・「自分を見つめ直そう」・「将来の自分を考えよう」 ・「自分の将来とお金について」・「いきかたのいろいろ」・「中学校の卒業後の自分を考えよう」</p> <p>2年</p> <p>【重点目標】 「学ぶこと・働くこと」の意義や役割の理解、「将来設計」などキャリアプランニング能力や、「情報の理解・選択・処理等」など課題対応能力を高めていく。 【職場体験学習、指導内容】 ○職場体験学習(事前・事後指導も) ・職場体験初日や事前訪問時に、職業インタビューをする。・職場体験学習体験発表会の実施 【学級活動での指導内容】 ・なぜ、人は学ぶのだろう・「なぜ、人は働くのだろう」 ・「進路情報を活用しよう」・「卒業後のさまざまな学びの道」 ・「自分らしい進路を考えよう」・「職業について考えよう」 ・「将来のデザインをしよう」・「自分らしさ、友だちらしさ」</p> <p>3年</p> <p>【重点目標】 「計画立案」など課題対応能力や「学ぶこと・働くこと」の意義や役割の理解、「将来設計」などキャリアプランニング能力を高めていく。 【指導内容、方法】 ・二者面談(進路相談)での個別指導・「最上級生として集団のために貢献することの指導」 【学級活動での指導内容】 ・「悩み、不安、ストレスの解消に向けて」 ・「自分の個性、友だちの個性」 ・「地域・社会に生きる一員として」 ・「将来のために、いま学ぶこと」 ・「職業について考えよう」 ・「進路選択の準備をしよう」 ・「自分に合った進路先とは」 ・「将来を見通した進路選択をしよう」 ・「進路の幅みと上手につきあおう」 ・「進路の最終決定をしよう」</p> <p>特別支援学級</p> <p>【重点目標】 自己理解・自己管理能力や課題対応能力を、できるところから高めていく。 【指導内容や方法】 ・探求の時間いろいろな活動に一生懸命取り組む、一実行力(課題対応能力)や主体的行動(自己理解・自己管理能力) ・社会的な自立をめざす。・基本的な生活習慣や生活スキル・コミュニケーション能力や他者に働きかける力、チームワーク(人間関係形成・社会形成能力) 【学級活動での指導内容】 ・「挨拶」 ・「返事と報告」 ・「生活マナー」 ・「身だしなみ」 ・「衛生について」 ・「健康管理について」 ・「働くことについて」 ・「給料について」 ・「給料の使い方を学ぼう」 ・「休日の過ごし方」</p>	<p>総合的な学習・探求の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び方やものの考え方を見つけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、共同的に取り組む態度を育て、自己の生き方考えることができるようになる。 ・職業や自己の将来に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通じて、自己を理解し、将来の生き方考えるなどの学習活動が行われるようにする。 	
<p>道徳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。 ・自己が属するさまざまな集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努める。 ・勤労の尊さや意義を理解するとともに、奉仕の精神を持って、公共の福祉と社会の発展に努める。 ・「心のノート」や副読本を利用したり、自分の経験や体験などを生かす。 	<p>特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。 ・学級活動でキャリアに関わる内容を扱う。学ぶことと働くことの意義や理解、進路適性の吟味と進路情報の活用、望ましい勤務観・職業観の形成、主体的な進路の選択と将来設計。 ・学校行事では、「勤労生産・奉仕の行事」において、勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職業体験などの職業や進路に関わる啓発的な体験が得られるようにする。 		

6. 実践内容

実践1：教科横断的なキャリア教育の推進

成田市立中台中学校 キャリア教育 年間計画(第1学年)

教材名	○人間関係形成・社会形成能力		☆自己理解・自己管理能力		△課題対応能力		□キャリアプランニング能力		
	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保健体育	技術・家庭
【ものの見方】言葉がつなく世界遺産		世界の様々な地域の調査	平面図形・空間図形	身の回りの物質とその性質	自己紹介・友達紹介・先生紹介	合唱コンクール	「トレードマークで自分を表そう」	体ほぐしの運動	「生活に役立つものを作ろう」
生徒の活動及び学習目標	・言葉を自覚的に使うことが生活の向上につながることに気付く。 ・筆者の問題提起を捉え、さらに「職人たちの思いの籠もった言葉」について考えたり話し合ったりする。	・自ら設定した課題の解決に向けて、調査の手順を考え、仮説を検証する。 ・調査結果のまとめや発表などの学習活動を通して、言語能力を高める。	・作図や計量を通して、直感的な見方や考え方を深めることができる。	・実験の結果を分析・統合しながら、原理や法則を発見したり一般化を図ったりすることをとおして、科学的な見方・考え方をはぐむことができる。	・簡単なあいさつをすることができる。 ・簡単な自己紹介をすることができる。 ・友達や先生を簡単に紹介することができる。	・合唱練習でパートの役割を把握し、ハーモニー作りに取り組むことができる。 ・友達と協力して、一つの歌を作る楽しさを味わうことができる。	自らを個性を肯定し、他者に伝わるように自分自信の色と形で表す。	・運動そのものの楽しさや心地よさを味わい、自分や仲間の体と心の状態に関心をもち、体の調子を整えることができる。	物を作る月に必要な道具や機械の仕組みを知り、構想から完成まで自分なりに工夫して昨比を仕上げることができる。
キャリア能力	○☆△	○△	☆△	△□	○△	○△	○☆	○☆△	☆△

成田市立中台中学校 キャリア教育 年間計画(第2学年)

教材名	○人間関係形成・社会形成能力		☆自己理解・自己管理能力		△課題対応能力		□キャリアプランニング能力		
	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保健体育	技術・家庭
【ものの見方】学ぶ力		世界から見た日本の資源・エネルギーと産業	三角形・四角形	気象のしくみと天気の変化	Let's act/Introducing My Town / Let's have a discussion	合唱コンクール	「ともし火を包む」陶芸によるランタン制作	体ほぐしの運動 走り高跳び・長距離走	「ロボットの製作を通して、エネルギー交換の仕組みについて理解しよう」
生徒の活動及び学習目標	・筆者の問題提起について自分の考えをもつ。 ・自分の知識や体験と関連づけて、受け止めた問題について考えたことを文章にまとめる。	・日本の産業の特色を理解し、それぞれの産業がかかえる課題について考察する。 ・世界的視野から日本の現状を理解するとともに、国内の産業の動向を知る。	平面図形の基本的な性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ、論理的に考察する能力を養う。	気象観測を行い今後の天気を予報し気象災害から身を守る能力を養う。気象予報士の仕事について理解する。	・様々な場面で簡単な会話をすることができる。 ・成田のことに紹介することができる。 ・自分の意見や考えを相手に伝えることができる。	・各パートの役割と友達と協力して工夫しながら取り組むことで把握し、クラス全体が同じ思いで歌唱活動に取り組むことができる。	生活環境と照明効果の関わりを理解し、よりよい生活空間を構築する姿勢を養う。	・競争したり、記録を向上させたりするために仲間と協力して効果的な練習方法を見つけ、取り組むことができる。	エネルギーについて知り、それらを利用したロボットの製作ができる。他の生徒と協力しロボットの製作することができる。
キャリア能力	☆△□	○△□	○△□	☆△□	△☆	○△☆	△□	○☆△	○△

成田市立中台中学校 キャリア教育 年間計画(第3学年)

教材名	○人間関係形成・社会形成能力		☆自己理解・自己管理能力		△課題対応能力		□キャリアプランニング能力		
	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保健体育	技術・家庭
【考え方】言葉の力		生産と労働	相似な図形	化学変化とエネルギー	Introducing Our School / Introducing Dairy Life and Traditions in Japan / Speech	合唱コンクール	抽象彫刻	体ほぐしの運動 バレーボール サッカー バスケットボール	「ソフトを活用し、自分の思いを伝えよう」
生徒の活動及び学習目標	・「言葉の力」が「創造する力」であるとする筆者の考えを捉え、これから自分が「言葉」にどう向き合うかをまとめる。	・現代の日本企業の役割や特色と課題について考察する。 ・労働をとりまく環境について理解し、安心して暮らせる社会について考えを深める。	平面図形の性質を、三角形の相似条件を基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を養う。	自ら課題を選択し、実験結果を考察することにより学習課題を自主的に解決することができる。	・自分の学校のことに紹介することができる。 ・日本の生活や習慣を話す語句や文を聞いて、何をさしているのかわかる。	・美しいハーモニーを作るために、課題を見つけ計画的に練習に取り組むことができる。 ・クラスが一つとなり、おおい表現しよう活動できる。	抽象的な表現とは何かを理解し、多様な個性を受け入れることができる感性を養う。	・チームにおける自分の役割を自覚して、互いに協力して戦術を立てることができる。	生活とコンピュータのかかわりを知り、情報社会におけるコンピュータの活用方法について理解する。
キャリア能力	☆△□	○△□	○△□	☆△□	☆△□	○△☆	○☆△	○☆△	☆△

実践2：職業人に聴く会（令和4年12月2日 第2学年で実施）

(1) 趣旨 千葉県「学校教育の指針」5つの重点項目の1つである「発達の段階に応じたキャリア教育」を受け、生き方や進路を考える学習の一環とする。

（コロナ禍以前は1年次「職業人に聴く会」、2年次「職場体験学習」、3年次「上級学校訪問」という系統立てた学習であったがこの二年間実施できていないため）

(2) 目的

- ・実際に働いている社会人から話を聞き、職業に対する視野を広げるとともに、職業に対しての関心や理解を深める。
- ・職業人、社会人としての価値観や生き方を学ぶことにより、健全な基本的な生活習慣、態度の大切さに気付く。
- ・聞いたことをレポートにまとめ、適切に情報を活用する力を身につける。
- ・キャリア学習を通して、自分の生き方を考え、希望進路の目標を持ち、これからの学校生活に対して意欲を高める。

(3) 当日の日程

講座名 ①消防署 ②動物愛護センター ③保育士 ④サッカースクール

※アンケートによって2講座を選択

1回目	14:00～14:30
休憩	14:30～14:45
2回目	14:50～15:20

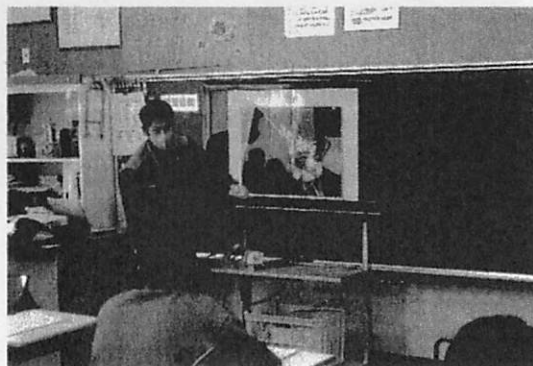


(4) 事前学習

- ・「職業調べ」レポート作成…職業に対する理解を深め、情報収集・活用能力を養う。

(5) 事後指導

- ・「お礼の手紙」作成…講師の方々との交流を通して学んだ礼儀、マナーの学習
- ・「職業人に聴く会」レポート作成…聞いたこと、体験したこと、感じたことをまとめる学習



実践3：キャリア教育講演会

(1) 令和4年12月20日(火)

講師 増田 明美 氏 スポーツジャーナリスト・大阪芸術大学教授

1964年、千葉県いすみ市生まれ、成田高校在学中、長距離種目で次々に日本記録を樹立する。1984年のロス五輪に出場。92年に引退するまでの13年間に日本最高記録12回、世界最高記録2回更新という記録を残す。マラソン、駅伝の解説が好評で、2017年にはNHK朝の連続テレビ小説「ひよっこ」の語りを担当。現在、テレビ番組のナレーションやニュース番組のコメンテーターも務める。日本パラ陸上競技連携会長、全国高等学校体育連盟理事、日本パラスポーツ協会理事。

講演内容

演題「進め未来へ、一步一步！」

冒頭では中台中学校校歌を歌い、生徒の気持ちを一気に惹きつけて講演会が始まった。増田さんの生い立ちから、成田高校陸上競技部で経験した挫折と、そこから立ち上がり、高校記録、日本記録をどんどん塗り替えた成功のエピソード。ロス五輪で経験した挫折、そこから多くの方の支えをえて、再び立ち上がったドラマを増田さんの軽快なリズムと独得の話術で生徒に語りかけてくれた。また、増田さんがパラ陸上競技に携わる中で、ルードウィヒ・グットマン博士の言葉である「失ったものを数えるな、残されたものを最大限生かせ！」という言葉に感銘を受けた、皆さんはネガティブ思考になっていませんか。と語りかけ、生徒の心に訴えかけ、今やっていることは絶対形になり結果が出ると励ましてくれた。最後に生徒から質問では多くの生徒の手が挙がり、増田さんも驚くほどであった。増田さんの講演が生徒一人一人の心に響き、自らの将来について考え、展望した現れであろうと感じた。



め未来へ、一步一步！
講師 増田明美さん

(2) 令和2年11月27日 金曜日

講師 小林 宏 氏 東京理科大学 工学部機械工学科 教授

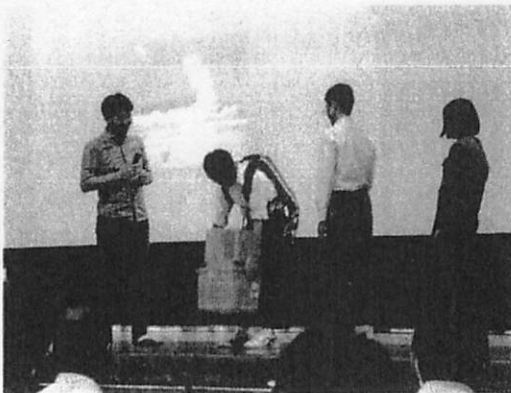
2013年に「株式会社イノフィス」を設立。2018年10月24日、世界で最も革新的なベンチャー企業100社（米国 Clarivate Plc が選出）に選ばれる。実際に役に立つロボット技術を追求しており、「生きている限り自立した生活を実現する」機器の開発を目的に、「マッスルスーツ®」をはじめとする着用型筋力補助装置の開発、新しいコミュニケーションメディアとして顔ロボットの開発、実用的な画像処理技術の追求など、他研究機関では行われていないユニークな研究を独自に進め、企業に負けないコンセプトや技術力を保有し、複数の企業と実用化のための共同研究開発を推進している。

講演内容

演題 「無ければ造ろう」人のためのロボット

～マッスルスーツ®で「生きている限り自立した生活を実現する」～

厚生労働省は「働き方未来2035」の中で、2035年には、「働く」という活動が、単に報酬を得るためではなく、社会への貢献や、周りの人との助け合いや地域との共生、自己の充実感など、多様な目的をもって行動することも考えなければならない社会になっていると記されている。誰かを働かせる、誰かに働かされるという関係ではなく、共に支え合い、それぞれが自分の得意とすることを発揮でき、生き生きとした活動ができる、どんな人でも活躍の場がある社会を創っていくために、働くことの定義が大きく変わる事となる。そんな予測困難な時代を生きる生徒たちの未来に向け、どのような社会が到来するのか理解し、どのように生きていくのか、生徒自身が考える機会となる講演であった。研究職を志したきっかけから、あきらめずに追求することの大切さ、貢献することのよろこび等の話を聞くことで、生徒たちの意識に大きな影響を与えられたのではないかと考える。



(マッスルスーツ®を実際に装着して)



(質問タイムには大勢の手が挙がった)

7. 成果と課題

【成果】

- ・実際に働いている社会人から話を聞き、職業に対する視野を広げるとともに、職業に対しての関心や理解を深められた。
- ・職業人、社会人としての価値観や生き方を学ぶことにより、健全な基本的な生活習慣、態度を身につけようとする意欲に結びついた。
- ・一連のキャリア教育に取り組むことにより、自分の生き方を考え、希望進路の目標を持ち、これからの学校生活に対して意欲が高まった。

【課題】

- ・この数年間、コロナ禍の影響で、キャリア教育、特に職場体験は2年連続中止となっており、生徒が実際に体験して行う学習は大幅に縮小せざるをえない状況であった。今後も様々な状況が想定される中、新たな体験的学習やICTを活用した新しい学習形態も取り入れながら、生徒自身が夢や目標を持って自分らしい生き方を実現しようとする態度が身につくような学習を考えていく必要がある。